

建築用金属内外装材の「フロント」

建築用金属内外装材の製作・工事業、フロント（本社・東京都新宿区、社長・松川博行氏）は、工場から出荷前に錆（さび）を熟成させる耐候性鋼の仕上げ技術「RUSTY R」を確立した。初期に流出する錆の発生期間を大幅に短縮。施工後に周囲を汚す初期錆の課題を解消するとともに、錆本来の美しさを生か

「錆、熟成の仕上げ技術」を確立 初期の流出期間を大幅に短縮

耐候性鋼

して、建築物や外構向けなど耐候性鋼の用途拡大につなげる。

「RUSTY R」では、工場での耐候性鋼のミルスケール（黒皮）を除去し、同社が開発した特殊な錆出し剤で瞬時的に錆びさせる。続いて2カ月以上の熟成期間を設け、屋外で天日と風雨にさらしながら錆を育てること

建築物や外構など用途も広がる



は、錆を意味する英語「佇まいの経年変化を愉しんでもらう」（同社の形容詞社）。

「RUSTY R」の特性を生かしながら提案していく。現。一連の工程を経て、初期に流出する錆を極力最小化した状態の耐候性鋼を施工現場に搬入する。『熟錆（せい）』を応じて色に渋さや深みが増す錆ならではの美しさを指向するデザインが、同社では「生きた錆をまとい、」が不要な耐候性鋼の特性を生かしながら提案していく。